



## 名字（苗字）はどうしていろいろあるの

### 土地の名や同じ家名の人など名字はまちまち

日本の名字の総数は、27万もあるといわれています。中世までは「名字」といわれました。というのは、土地を名田といいましたが、その土地を持っているしるしとして、土地の名を名乗ったからです。つまり土地に結びついたかたちで名字ができました。しかし、近世になると、血のつながりである苗字の文字が使われるようになりました。祖先の氏や姓などをもとに、苗字が作られたのです。また、家々の位置している場所をしめした屋号や、職業によって決める場合もありました。名字と苗字は今ではごっちゃになって、区別されてはいません。

### 明治になって名字（苗字）が義務づけられた

苗字をつけることは、江戸時代までは、許されない人が多かったのですが、1870年（明治3年）に政府は法律で、名字をつけることを義務づけました。そのとき、何とついたらよいかまよって、鈴木・斎藤・小林・井上などよく知られている名前をつけた人や、その土地に関係のある場所を名字にした人、同じ家名の人々が相談しあってつけたケースなどさまざまでした。

こうして、日本人には、いろいろな名字がつけられているわけです。

（監修・保岡 孝之）

